

「エルボン」等ニ優リ、或時ハ等シク、只ダ一例ニ於テノミ本劑ガ無効ニシテ「マレチン」ガ奏効セルヲ見タリ。

三、「アスピリン」(間庭、須田)ハ我局方「アスピリン」ニ屢々見ルガ如キ副作用(主ニ消化障礙)ヲバ少シモ見ザリキ。

僅々廿一例ノ結果ヲ以テ直ニ本「アスピリン」(間庭、須田)ノ作用ヲ論斷スルハ聊カ早計ノ如キモ、尙左ノ言ヲナスノ不當ナラザルヲ予ハ信ズ。

「アスピリン」(間庭、須田)ハ副作用ナキ「ロイマチス」劑、鎮痛劑並ニ解熱劑トシテ、我局方「アスピリン」ニ遙ニ優越シ、彼ノバイエル會社製「アスピリン」ト等シク共ニ以上ノ目的ニ應用サルベキモノナリ。

終ニ貴重ナル「アスピリン」(間庭、須田)ヲ賜リシ間庭教授、須田助教授並ニ指導ト本稿校閲トヲ賜リシ恩師井上教授ニ謹デ感謝ノ意ヲ表シ、併セテ内科第一部醫局各位ノ厚意ヲ深謝ス。

「ラヂウム」放射ニヨル遺尿症ノ治驗例

千葉病院 坂田直士 述

同學高島垣男氏ハ嘗テ長尾博士ノ教室ニ於テ廿歳ノ男子ノ夜尿症ニ「ラヂウム」放射線ヲ作用セシメ以テ之ヲ治癒セル一例ヲ報告セルコトアリ(東京醫事新誌第一八三二號—大正二年)其後余ハ同氏ノ後ヲ續ギテ是ガ研究ヲ企テ五例ノ遺尿症患者ニ「ラヂウム」放射療法ヲ行ヒ良好ナル成績ヲ得其四例ハ治療シ、一例ハ甚ダ輕快セル實驗例ヲ得タルヲ以テ患者ノ

既往歴並ニ其經過ヲ記シテ識者ノ一讀ヲ乞ハント欲ス。

第一例。患者G、W、(男子)十四年、子守。

血族の關係。祖父母健在、父ハ七年前(腦病?)世ヲ去リ、母ハ健、兄弟九人中一人ハ幼時胃腸ノ疾病ニヨリテ死セル外皆健全ナリ。患者ハ第六子ナリ。

患者ノ從弟ニ一人本症ヲ患フ者アリ。尙未遠キ親族ニ一人同病者アリト云フ。

既往症。種痘善感、麻疹ハ幼時經過ス、其他本症ヲ發スル迄テ著患ヲ知ラズト云フ。

今ヨリ五年前本症ニ罹リ殆ド毎夜一回ノ遺尿アリ、以來今日ニ至ル、目下慈母ハ毎夜三、四回、呼起シテ排尿セシムルモ殆ド毎夜一回ノ遺尿アリ依テ來院ス。

現在症。體格榮養共ニ中等度、顔貌普通、記憶力尋常、學校成績普通(小學校二年修業)、呼吸器、循環器、消化器ニ異常ヲ認メズ。

檢尿。比重、一〇二六、酸性、異常成分ヲ見ズ。

療法並經過。

大正三年二月十六日、「ラヂウム」放射開始。

部位。薦骨裂孔附近。

量。約三密瓦(臭化「ラヂウム」)

濾過器。一密迷鉛板。

放射時間。一時間。

此夜一回排尿ニ覺醒セシ外遺尿ナシ。

(備考以下遺尿ヲ+、遺尿無シヲ-)ニテ表ハス。

同月十七日	第二回放射
同十八日	第三回 一回排尿(夜間)
同十九日	第四回 一回排尿(同)
同廿日	第五回 一回排尿(同)

(-)(-)(-)(+)

同	廿九日	第廿回放射
同	卅日	休
同	五月一日	第廿一回放射
同	二日	休
同	三日	第廿二回放射
同	四日	休
同	五日	第廿三回放射
同	六日	休
同	七日	第廿四回放射
同	八日	休
同	九日	第廿五回放射
同	十日	休
同	十一日	第廿六回放射
全癒中止。		

因ニ本患者ニ在リテハ四月廿六、七日頃ヨリ一夜大抵一回排尿ニ覺醒スレバ遺尿スル事ナキニ至レリ。而シテ本療法ヲ中止スル頃ハ全ク排尿スル事ナク平靜ナル眠リヲナスニ至レリ。

第三例。K、K、(男子)十五歲、中學生。

血族の關係。父ハ六年前尿毒症ニテ死亡ス、母ハ健在、兄弟四人皆健全、患者ハ其二男ナリ。

既往症。麻疹、種痘ハ幼時之ヲ經過セリ、生後一年半位ニシテ左鼠蹊「ヘルニア」ヲ患ヒタルモ四ヶ月位ニシテ治セリ。滿二歲ノ夏頃ヨリ遺尿ヲナシ其後百方治療ヲ加ヘタルモ治セズシテ今日ニ至ル。

遺尿ノ回数ハ不定ナルモ近來ノ情況ヲ視ルニ月ノ初メ四、五日持續シテ遺尿アリ其後不定時ニ遺尿スルガ如シト云フ。

大正三年二月ニハ其病勢著シク増惡シ殆ド毎夜遺尿セリト云フ。

遺尿ノ時間ハ午後十一時頃一回、又第二回目ノ遺尿ヲ起ス時ハ午前

(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)

二時頃ナリト云フ(床ニ入ルハ大抵午後八、九時頃)。三月ハ九回遺尿アリ(十六日迄デニ四回次テ其四日目位ニ一回、最近廿八日、廿九日ニ各一回アリシト)。學業普通ナルモ生來神經質ナルガ如シ。現在症。身長四・四三尺、體重、七・九貫、體格榮養共ニ中等度、消化器、呼吸器、循環器ニ異常ヲ見ズ。檢尿、比重一〇二三、酸性、異常成分ヲ證明セズ。知覺、會陰部及耻骨縫合上部附近稍々温、冷感鈍、觸覺ハ反テ敏ナルガ如シ然レ共ニ著シカラズ。

療法及經過。

三月卅日	「ラヂウム」放射開始
部位、量、濾過器、時間凡テ第一例ニ等シ。此夜遺尿ナシ。	
同卅一日	第二回放射
同四月一日	第三回同
同二月二日	第四回同
同三月三日	第五回同
同四月四日	第六回同
同五月五日	休
同六月六日	休
同七月七日	第七回放射
同八月八日	第八回同
同九月九日	第九回同
同十月十日	第十回同
同十一月十一日	休
同十二月十二日	第十一回放射
同一月十三日	第十二回同
同二月十四日	第十三回同

(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(+)(+)(-)(-)(+)

(同右)
(午前三時頃)

原著實驗

同 九日	第廿五回放射
同 十日	休
同 十一日	第廿六回放射
近來床ニ入りテ九時、十二時二回位排尿セシムレバ其後三回位自覺シテ排尿スト云フ。(因ニ療法開始前ハ全ク自覺スル事ナカリキト云フ)。	
此日より濾過器ヲ變更シ十分一密迷「アルミニウム」板トシ、骨盤高位ニテ寢ニ入ラスル様命ズ。	
同 十二日	第廿七回放射
同 十三日	第廿八回
同 十四日	第廿九回
同 十五日	第三十回
同 十六日	第卅一回
同 十七日	休
同 十八日	第卅二回放射
同 十九日	第卅三回
同 二十日	第卅四回
同 廿一日	第卅五回
同 廿二日	第卅六回
同 廿三日	第卅七回
同 廿四日	休
同 廿五日	休
同 廿六日	第卅八回放射
同 廿七日	第卅九回
同 廿八日	第四十回
同 廿九日	第四十一回
同 三十日	第四十一回

(-)(-)(-)(-)(-)(-)(+)(+)(-)(+)(-)(-)(-)(-)(-)(-)

(++)
二回遺尿

(-)(-)(-)(-)(-)(-)(+)(-)(+)(+)(-)(+)(-)(-)(-)(-)(-)(-)(-) 板下 スル 其後 (-)(-)(-)

一 回 遺 尿

同 卅一日

休

六月一日

第四十二回放射

此日ヨリ前方耻骨縫合上部及背部ノ二方面ヨリ放射。

同 二日

第四十三回放射

(-)(-)(-)

患者ノ希望ニヨリ一時放射ヲ中止ス、本例ニ在リテハ全治トハ云ヒ難ケレモ甚ダ輕快セルハ右表ニヨリ證明セラル、處ナリ。

第五例。患者T、H、(男子)十八歳、師範生。

血族の關係。父母健在、兄弟二人異母妹一人アリ共ニ健全、何等微ス可キ遺傳的關係ヲ認メズ。

既往症。麻疹、種痘共ニ幼時ニ於テ經過ス、本症ハ幼少ノ頃ヨリアリ(年齢不明)、十三、四歳ニ至リテ治セルモ昨年六月頃ヨリ再發、其當時一ヶ月二回位遺尿アリシガ冬季ニ入リテ増惡セリ。三月廿五日、卅一日、四月一日、七日、十日、十一日、十六日、十七日各一回遺尿アリ大抵午後十二時頃ナリト云フ。

現在症。體格、榮養共ニ佳良、消化器、呼吸器、循環器ノ疾病ヲ認メズ。

檢尿、比重一〇三〇。酸性、「インデカン」陽性。

知覺。會陰部ハ何等變化ナキモ、ミハイル氏三角下部ニ於テ温、冷感共ニ稍敏ナル處アリ然レモ著明ナラズ。

療法及經過。

四月廿五日、廿六日「ラヂウム」放射。

部位、前方耻骨縫合直上部。

量、第一例ニ等シ。

濾過器、時間、共ニ第一例ニ等シ。

五月十六日 都合ニヨリ今日ニ至ル迄デ放射中止。

第三回放射

休

第四回放射

第五回

第六回

第七回

第八回

第九回

休

休

第十回放射

第十一回

第十二回

第十三回

休

第十四回放射

第十五回

本患者ニ在リテハ部位ハ耻骨縫合直上ニシテ放射開始後一回ノ遺尿ヲモ見ズ。

今前記實驗例ノ治療成績ヲ表示スレバ次ノ如シ。

(-)

一	號番	G、W	患者名	男	姓	十四歳	年 齡	毎夜一回	治療前ノ遺尿頻度	「三密瓦」臭化「ラヂウム」	使用セル「ラヂウム」ノ量	濾過器	放射部位	時間	放射回数	治療期間	轉歸
										一密迷ノ鉛板			薦骨裂孔附近	一回一時間宛	九回(但シ第七回目ヨリ遺尿止ム)	十六日間	治癒

摘要

一、遺尿症ノ輕キハ唯數回「ラヂウム」放射ニヨリテ遺尿ノ止ムアルヲ見、重キモ尙ホ二、三十回ノ放射ニヨリテ治療乃至輕快ヲ見ル。

二、故ニ「ラヂウム」ノ放射療法ハ遺尿症ニ對シ極メテ有効ナルモノナリ。

攔筆スルニ臨ミ長尾博士ノ指導ト本稿校閲トニ對シ深ク謝意ヲ表ス。

困難ナル拔齒ニ就テ

讀谷山朝宣

拔齒ハ口腔外科ノ中必要ナルモノノ一ニシテ殊ニ其困難ナルモノニ於テ然リトス。余ハ茲ニシエッフ Schell チースチンスキー Cieszyński シルテン Betten ツルノウスキー Tufrowsky 氏等ノ發表セルモノヲ參酌シ、菲才ヲ顧ミズ、貧弱ナル經驗ヲ耻ヂズシテ本題ヲ述ベント欲ス。

一、局所麻酔、コレハ拔齒ノ際最モ必要ナルモノニシテ若シ局所麻酔不十分ナル時ハ患者ハ疼痛ヲ訴ヘ、術者ハ氣急ギ、極メテ不快ヲ感ズ。而已其結果トシテ患者ハ更ニ他日他ノ齒

二	三	四	五
M, O	K, K	T, K	T, H
男	男	男	男
十六歳	十五歳	七歳	十八歳
一ヶ月ニ 三回	毎夜一回	毎夜二回	一ヶ月ニ 三回
同右	同右	同右	同右
同右	同右	同右	同右
同右(中途部位ヲ縫 更ス)	同右(中途部位及濾 過器ヲ變更ス)	同右	耻骨縫合直上部
同右	同右	同右	同右
二十六(但シ第十二回目 ヨリ遺尿止ム)	三十五(但シ第二十回目ヨリ 遺尿止ム)	同右	十五回(但シ第一回目ヨリ 遺尿ナシ)
三十五日間	四十八日間	五十五日間	十八日間
治癒	治癒	輕快	治癒

牙ニ拔齒セザル可ラザル場合ニ遭遇シテモ前回ノ疼痛ヲ恐レテ承諾セザルガ如キ恐怖ヲ懷クニ至ル。拔齒スベキ齒牙ノ小數ナルモノニ向ヒテハ注射針ヲ用ヒ、之ヲ折ラザルヤウ注意シテ當該齒牙ノ唇頰側及ビ口蓋舌側ノ齒槽骨膜下ニ前齒ニ於テハ各半筒白齒ニ於テハ各一筒宛ノ二%ノ「ノボカイン」溶液ヲ注入スル時ニハ暫時ニシテ骨内ニ滲透シテ完全無痛ニ拔齒スルコトヲ得ルモノナリ。淺ク齒齦内ニノミ注入スル時ハ拔齒ノ際患者疼痛ヲ訴フ、殊ニ困難ナル拔齒ニ際シテハ可ナリノ時間ヲ要スルヲ以テ疼痛ノタメニ手術ヲ中止スルノ止ムヲ得ザルニ至ルコトアリ、故ニ面倒ナル拔齒ト診斷シタル時ニハ充分丁寧ニ稍多量ノ注射液ヲ注入ヲナシ置ク可シ。斯クテ拔齒ノ決シテ恐ルベキモノニアラザルコトヲ最後ニ話シオクモ小兒婦女ニアリテハ少カラザル慰安トナル。

二、傳達麻酔、此法ハ麻酔ノ持續長ク、數個以上ノ拔齒ニ尙ヨク堪エ、注射液ヲ注入スルニ齒齦ニスルヨリモ易ク、殊ニ齒膜炎ヲ有スル齒牙ノ拔去ニハ局所注射ハ禁忌ナルノミナラズ患者到底其疼痛ニ堪エ得ザレドモ傳達麻酔ヲ以テスル時ハ容易ニ一側ノ下顎骨、或ハ上顎骨ヲ麻痺セシメ得テ無痛ニ拔齒シ得ル特點アリ。